

紛争、テロリズムと市民意識

パレスチナ市民の自爆攻撃に関する意識調査の分析

「発展途上国の政治と社会」
第6回講義



はじめに

- ※ 9.11テロ事件に際して
歓喜するパレスチナ人
たち
- ※ 世界を震撼させた事件
を受けて、別の意味で
ショッキングな出来事
- ※ パレスチナ人の日常と
は？



イスラーム＝テロリスト／テロ組織？

- ※ わかりやすい構図なの
か？
- ※ 自爆テロという不可解
な事件の説明原理とな
りうる？
- ※ イスラームがマジック
ワードになっている



講義の趣旨

- ※ パレスチナ市民を対象に実施された世論
調査データを題材として
- ※ 殉教攻撃(自爆テロ)をどの程度、そして
なぜ支持するのか？
- ※ 実行犯は確実に死に至り、周囲の人間を
無差別に巻き込む戦術はイスラーム的情
熱の高まりによって説明されるのか？

オスロ合意後のパレスチナ情勢

- ※ 1994年2月に発生した
ヘブロン事件
- ※ 4月にハマースが報復
の自爆攻撃を行う
- ※ 1996年5月までに8件
の自爆攻撃を実行
- ※ ハマース幹部暗殺へ
の報復



1996年～1999年

- ※ 自治政府議長選挙で
アラファトが勝利
- ※ ネタニヤフ政権(リク
ード)樹立のために和
平交渉は進展せず
- ※ 98年によやく会談が
もたれ、「ワイ合意」へ



バラク政権樹立からCDへ

- ※ 1999年5月の総選挙でバラク政権(労働党)が樹立
- ※ シャルム・エル・シェイク合意が調印
- ※ キャンプ・デービッド会談では合意に到らず



アル・アクサ・インティファダへ

- ※ シャロンがハラム・アツシャリーフ(神殿の丘)視察を強行
- ※ パレスチナ人が「聖地を守れ」をスローガンに蜂起を開始



インティファダと自爆攻撃

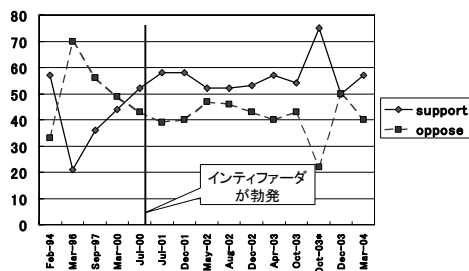
- ※ 9月30日の衝撃的なパレスチナ少年の死
- ※ 短期間で集中的に発生した自爆攻撃
- ※ インティファダ以前は4年間で16件だった自爆テロが、以後は1年2ヶ月で39件



リサーチ・クエスションの特定

- ※ インティファダ以降、パレスチナの武装組織は、なぜ自爆テロという戦術をこぞって決行するようになったのか
- ※ Kydd and Walter (2002)
 - 和平プロセスをスポイルする役割がある
 - インティファダ以降の状況を説明しない
- ※ 「暴力の連鎖」説?
 - Bloom (2005)とRicolfi (2005)が否定

図1: 自爆テロへの支持／不支持



リサーチ・クエスション

- ※ 多くのパレスチナ人は1994年にハマースが決行した自爆戦術にはショックを受けていた⇒低い支持率
- ※ インティファダ勃発後の世論調査では、自爆攻撃への支持率が急増
- ※ 武装組織が自爆テロを頻発させた背景には世論の変化がある
- ※ なぜパレスチナ市民はテロへの態度を変えたのか? (リサーチ・クエスション)

分析と検証

- ※ 仮説1: イスラエル占領による市民生活の悪化、貧困化がテロへの支持に結びついた
- ※ 仮説2: イスラーム主義への期待が高まり、テロへの支持に結びついた
- ※ 仮説3: 中東和平への失望感が広がってテロへの支持に結びついた

仮説1について

- ※ 経済的困窮や貧困がテロの原因になっているとの指摘はしばしばなされるが、学術的研究の多くがこの説を否定する
- ※ 社会経済的要因の影響を指摘する研究
 - ガザ地区・難民キャンプ居住者は自爆テロを支持する傾向がある
 - 社会的に「強い」属性を持つパレスチナ人は自爆テロを支持する傾向がある

仮説2について

- ※ Islam is solution.
- ※ 自爆攻撃を正当化する論理
- ※ ジハードの一環
- ※ 不信仰者によって占領されたムスリムの土地を取り戻す
- ※ イスラエル人は子ども以外すべて兵士



Sheikh Yusuf al Qaradawi

仮説3について

- ※ 中東和平への失望感がインティファダの勃発に先行?
- ※ 世論調査の結果はこれを否定
- ※ 2000年6月の時点でオスロ合意への支持率は50%以上
- ※ キャンプ・デービッド会談が失敗に終わっても、パレスチナ社会には楽観的ムードが支配していた

図2: 将来についての楽観／悲観

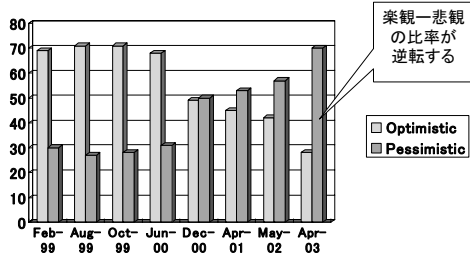
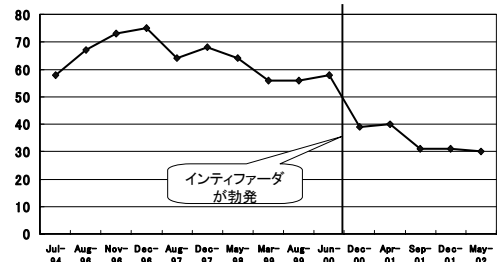
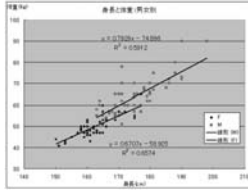


図3: 和平プロセス／オスロ合意の支持率



回帰分析とは

- 説明変数(x_i)と被説明変数(y_i)との間に線形関係を想定
- 推定される直線と実測値との差(誤差)を最小化するように傾きと切片を求める
- 統計的に有意な傾きがゼロではない



回帰分析の結果①

表1: 1999年JMCCデータ

	従属変数: 武装闘争				従属変数: 自爆テロ			
	係数	S.E.	t	Sig.	係数	S.E.	t	Sig.
定数	4.672	0.381	12.277	**	4.199	0.393	10.679	**
平和プロセスへの支持	-0.327	0.072	-4.576	**	-0.326	0.074	-4.404	**
平和プロセスへの満足	-0.190	0.083	-2.283	*	0.017	0.086	0.159	
将来への期待	-0.151	0.034	-4.792	**	-0.122	0.036	-3.178	*
ハマース支持	0.133	0.057	2.357	*	0.135	0.059	2.304	*
レジスタンス支持	0.129	0.082	1.568		0.030	0.084	0.363	
ファタハ支持	-0.201	0.053	-3.805	**	-0.194	0.054	-3.569	**
年齢	0.096	0.049	1.959		-0.007	0.050	-0.131	
性別	0.043	0.117	0.372		-0.085	0.120	-0.705	
居住地: 難民キャンプ	0.001	0.167	0.006		0.150	0.172	0.869	
居住地: ガザ地区	-0.399	0.131	-3.055	**	-0.528	0.134	-3.927	**
N	1030				1037			
決定係数	0.161				0.106			

(注) *: p < .05, **: p < .01

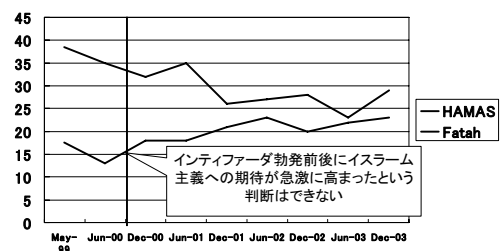
回帰分析の結果②

表2: 2001年PSRデータ

	従属変数: 武装闘争				従属変数: 市民を標的としたテロ			
	係数	S.E.	t	Sig.	係数	S.E.	t	Sig.
定数	3.768	0.162	23.286	**	3.445	0.226	15.235	**
平和プロセスへの支持	-0.071	0.021	-3.309	**	-0.154	0.030	-5.134	**
武装闘争の有効性	0.215	0.023	9.169	**	0.174	0.033	5.312	**
将来への期待	-0.164	0.021	-7.638	**	-0.188	0.030	-6.272	**
ハマース支持	0.262	0.073	3.565	**	0.279	0.103	2.718	**
レジスタンス支持	0.224	0.104	2.144	*	0.239	0.146	1.634	
ファタハ支持	0.066	0.061	1.080		0.068	0.086	0.796	
年齢	0.001	0.002	0.414		-0.001	0.003	-0.422	
性別	0.041	0.052	0.776		0.085	0.073	1.163	
居住地: 難民キャンプ	0.178	0.069	2.571	*	0.157	0.097	1.621	
居住地: ガザ地区	0.109	0.056	1.933		0.176	0.079	2.231	*
N	1312				1312			
決定係数	0.166				0.116			

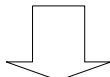
(注) *: p < .05, **: p < .01

政党支持率の変動



結論

- 自爆攻撃を含む、市民を標的としたテロ行為をパレスチナ人が支持するようになったのはなぜか？(リサーチ・クエスチョン)



- アル・アクサ・インティファダ勃発によって将来に期待が持てなくなり、平和プロセスを支持できなくなったためである。

むすびにかえて

- 「なぜイスラームからテロが生まれるのか」という奇妙な問題提起
- 自爆テロはイスラームに固有のものではない
- 「アラブの戦士が一矢報いた」ゆえのビンラーディン支持

